



亀山市名誉市民

彫刻家
中村 晋也
Shinya Nakamura

作品紹介

ふるさとあい
vol.122

「夏祭りの夜」

平成15(2003)年

団扇を持った浴衣姿の少女が見つめる先には、夜空に輝く花火でしょうか。美味しい香りに誘われて、出店の周りに集まる人々や、金魚すくいに群がる子どもたち、そんな光景も浮かんできます。夏祭りは、昔も今も変わらぬ日本の夏の風物詩。

この作品は、^{たちねぶた}立佞武多の館(青森県五所川原市)で現在開催中の「中村晋也100歳記念展」に出品しています。



(高さ)45cm × (幅)18cm × (奥行)12cm
中村晋也美術館

特別協力

公益財団法人 中村晋也美術館

<https://www.ne.jp/asahi/musee/nakamura/>



まちかど

キラリ

丸橋 俊彦さん
(三寺町)



亀山市子ども会育成者連絡協議会(市子連)会長。平成21年から市子連の理事として活動を始め、今年で17年目。市内各地区の子ども会をつなぎ、27人の役員のほか、ジュニアリーダーとして所属している24人の中学生とともに交流事業や体験活動などのイベントを企画・運営。年間を通じて子どもの健全育成に取り組んでいる。

子どもたちの出会いと成長が育つ場所

市子連に理事として参加した当初、丸橋さんは「自分の子と一緒にソフトやキックボールなどに参加し、ほかの子どもたちと触れ合うのが本当に楽しかった」と振り返ります。行事に積極的に関わる中で常任理事を任せられ、「市子連の行事は自由度が高く、何年経っても純粋に楽しい。終わりが近づくと寂しいねと役員同士で話すほどです」と笑顔を見せます。

3年前に会長就任を依頼された際は一旦辞退したものの、役員で話し合い、「私が会長を務めるけれど、みんなの意見を大切にしたい。協力してほしい」と伝え、歩みを進めてきました。会議では、丸橋さんの提案をきっかけに改善案がすぐに出てくるなど率直な意見交換が続いています。また、市子連では役員が無理なく参加できる体制づくりにも力を入れています。

「今は子どもも大人も、自分の時間を大切に作る時代。だからこそイベントに来て

ほしい。子どもたちは喜びも悔しさも全力で表現し、学校が違っててもすぐに友だちになれる。その姿に毎回驚かされます」と話します。さらに、「小さい頃から人と関わる経験は、成長とともに広がる人間関係や摩擦を乗り越える力になる。学校区を越えた交流や体験活動は市子連ならではの、子どもたちの成長を間近で感じられることが何よりの喜び」とスタッフ一同口をそろえます。

9月26日(土)・27日(日)には、飯ごう炊飯やキャンプファイヤーなど子どもたちが夢中になれる企画が盛りだくさんの野外体験学習が開催されます。「ぜひ参加してください」と丸橋さん。スタッフの温かなまなざしに見守られながら、子どもたちが伸び伸びと成長できる場はこれからも育まれていきます。

市子連のイベントについて詳しくは、亀山市教育委員会Instagramをご覧ください。

